

後高倉院(守貞親王)

法皇。承久の乱で、わびしい境遇から天皇経ない唯一の上皇になるも、直ぐに没した。

ごたかくらいん

治承のケデタ 1179 =

五条坊門大宮の大舎人頭藤原兼盛の宅で生れた。高倉天皇の第2皇子。母は藤原信隆の女七条院殖子。

源氏一斉蜂起 1180 = 1歳 :

平知盛に養育され、

後鳥羽天皇・1183 = 4歳 : 平氏の都落ちには、異母兄の安德天皇の皇太子に擬せられ、ともに西国に伴われた。

平氏滅亡・1185 = 6歳 : 平氏の滅亡後、京都に帰り、

..... 1188 = 9歳 :

奥州藤原滅亡 1189 = 10歳 : 親王宣下を受けて守貞と名乗り、

臨濟宗始・1191 = 12歳 : 六条殿で元服、三品となったが、

鎌倉幕府始・1192 = 13歳 :

..... 1197 = 18歳 :

源頼朝没・1199 = 20歳 :

執権政治始・1203 = 24歳 :

モンゴル帝国・1206 = 27歳 :

方丈記・1212 = 33歳 : 出家して、行助法親王となり、

北条霸権確立 1213 = 34歳 :

宋西没・1215 = 36歳 :

わびしい日々を送っていたが、

承久の乱・1221 = 42歳 : *承久の乱の結果、幕府は同母弟の後鳥羽上皇を隠岐に流し、入道行助親王に院政を請い、後鳥羽上皇の御領を献上した。ついで行助親王の皇子茂仁王(後堀河天皇)が踐詐し、行助法親王は皇位につくことなく、太上天皇の尊号を贈られた。法皇として2年にわたる院政ののち、

運慶没・1223 = 44歳 : *持明院殿で没し、後高倉院の諱を贈られた。